

2020年 第一回

登録標識・路面標示基幹技能者講習(標識)

修了試験問題

修了試験実施日:2020年11月13日

修了試験実施場所:富士教育訓練センター

登録基幹技能者講習実施機関:一般社団法人全国道路標識・標示業協会

注意事項

- ① 携帯電話は電源を切り靴の中に入れてください。
- ② 試験問題は係員の指示があるまで開けないでください。
- ③ 解答用紙に受験番号と氏名を明記してください。
- ④ 正解と思うものを番号で解答用紙に記入してください。
- ⑤ 試験開始から30分が経過するまで及び試験終了10分前から終了時刻までは退出することができません。
- ⑥ 試験問題は、持ち帰ることができます。
- ⑦ 質問がある場合は静かに挙手をし、係員の指示に従ってください。
- ⑧ 試験終了の合図があったら、筆記用具を置き係員の指示に従ってください。
- ⑨ 解答は、試験終了後1週間以内に全標協ホームページにて公開します。
- ⑩ 合格発表は令和2年12月25日に全標協ホームページに掲載します。

一般社団法人全国道路標識・標示業協会

問1

登録基幹技能者に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 登録基幹技能者は、厚生労働大臣の登録を受けた機関が実施する技能者講習を修了することにより認められる。
- ② 建設技能労働者をめぐる課題としては、適正な評価及び若年層の入職、処遇改善、技能者の定着などが挙げられる。
- ③ 登録基幹技能者は、効率的に現場作業を進めるためのマネジメント能力に優れた技能者である。
- ④ 工事の品質向上、建設業界の担い手確保、育成に寄与するためには、この制度の認知度の向上、5年ごとの更新講習による能力水準等の確保が必要になる。

問2

登録基幹技能者に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 登録基幹技能者を確保、育成及び活用することにより、生産性向上や品質確保のみならず、基幹技能者を雇用・育成する優良な専門工事業者の受注機会の拡大が図られることが期待されている。
- ② 登録基幹技能者講習を受講するには、業種に応じた資格と5年以上の実務経験、3年以上の職長実務経験の要件を満たす必要がある。
- ③ 「公共工事の品質確保の促進に関する法律」(品確法)においては、その目的及び基本理念に、担い手の中長期的な育成及び確保の促進が加えられた。
- ④ 職業能力基準の到達を測る目安は、登録基幹技能者では、高度な技術力を有し、他職種との調整や品質、原価、工程、安全、環境など施工における総合的な管理ができることである。

問3

登録基幹技能者に求められる能力に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① グループ全員に目標を明確に示し、部下の意見提案にも耳を傾け、目標達成に向けチーム全体をまとめる。
- ② 職務に関する技術提案等を積極的に行い、全体の成果に結びつける。
- ③ 原価管理に係る基本的な知識を有し、常にコスト意識をもって行動する。
- ④ 他職種とのコミュニケーションや相互信頼よりも、自分の立場や知識・経験に基づくリーダーシップを優先する。

問4

登録基幹技能者によるOJTに関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 安全具は、自分の命を守るため極めて重要なものであり、正しく装着されていることは、他人に頼らず、自分が必ず確認する。
- ② 知識だけでなく、実例を話して理解させ、体験させて納得させる、知識・実例・体験の「三位一体」で教える。
- ③ 現場入場に際しては、新規入場者教育を受け、現場での約束ごとは必ず守る。
- ④ 挨拶は、みんなに聞こえるように、明るく爽やかにする。

問5

建設業法に定める用語の定義に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「元請負人」とは、下請契約における注文者で建設業者であるものをいう。
- ② 「発注者」とは、建設工事(他の者から請負ったものを除く。)の注文者をいう。
- ③ 「下請負人」とは、下請契約における請負人のことである。
- ④ 「建設業」とは、元請負人として、建設工事の完成を請け負う営業をいう。

問6

労働安全衛生法に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 特定元方事業者の労働者と関係請負人の労働者が同一の場所において作業することによって生ずる労働災害を防止するために、統括安全衛生責任者を選任し、その者に元方安全衛生管理者の指揮をさせる。
- ② 労働基準監督署長は、労働災害を防止するため必要があると認めるときは、事業者に対し、安全管理者の増員又は解任を命ずることができる。
- ③ 事業者は、労働災害を防止するための管理を必要とする作業で、政令で定めるものについては、労働基準監督署長の免許又は登録を受けた者が行う技能講習を修了した者のうちから作業主任者を選任しなければならない。
- ④ 総括安全衛生管理者は、安全管理者、衛生管理者又は技術的事項を管理する者への指揮をしなければならない。

問7

道路法に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 道路標識及び区画線は、道路附属物として定められている。
- ② 道路管理者は、道路を常時良好な状態に保つように維持し、修繕し、もって一般交通に支障を及ぼさないように努めなければならない。
- ③ 道路管理者は、道路の構造を保全し、又は交通の安全と円滑を図るため、必要な場所に道路標識又は区画線を設けなければならない。
- ④ 道路管理者は、道路の構造を保全し、又は交通の危険を防止するため、区間を定めて、道路の通行を禁止し、又は制限することができる。

問8

道路交通法に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「道路における交通の安全と円滑を図る」ことは、道路交通法の目的の一つである。
- ② 道路交通法における「道路」とは、「道路法第2条第1項に規定する道路及び道路運送法第2条第8項に規定する自動車道」と定められており、一般交通の用に供される道路でも林道、私道などは含まれない。
- ③ 道路標識又は道路標示の種類、様式、設置場所等は内閣府令・国土交通省令(標識令)で定めることになっている。
- ④ 交通規制の権限は、都道府県公安委員会が有している。

問9

標識令に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 平成12年の改正では、歩行者用案内標識として「エレベーター(121)」、「エスカレーター(122)」等6種類が新設、追加された。
- ② 平成16年の改正では、高速道路等における自動二輪車二人乗り規制が見直されたため、廃止されていた「大型自動二輪車及び普通自動二輪車二人乗り通行禁止(310の2)」が再び登場している。
- ③ 平成26年の改正で、規制標示「環状交差点における左折等の方法(111の2)」が追加されているが、同標示は環状の交差点には設置しなければならない。
- ④ 平成29年2月の改正では、全国的高速道路をわかりやすく案内するため「高速道路番号(118の3)」標識が新設された。

問10

道路標識設置基準に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 道路標識設置基準は、道路標識の整備に関する一般的技術基準を定め、その合理的な計画、設計、施工及び管理に資することを目的としている。
- ② 重要物流道路以外の道路における片持ち式・門型式の標示板の設置高さは、5.0mを標準とし、標準によりがたい場合であっても、4.7m以上とすることが望ましい。
- ③ 画像表示用装置には道路標識を表示することができ、道路標識と同時に文字を表示することも可能である。
- ④ 地図を附置した案内標識は、鉄道、バス、空港等の乗換えが想定される交通結節点等に設置する。

問11

「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 自転車のピクトグラムは、法定外表示のため、標識令で定められた道路標示「普通自転車歩道通行可(114の2)」と類似したデザインとしない。
- ② 矢羽根型路面表示が車道外側線と重なる場合には、車道外側線の下に重複させて設置することができる。
- ③ 夜間の視認性を向上させる必要がある場合には、矢羽根型路面表示の縁に白線を設置する等の対応をとるものとする。
- ④ 自転車専用通行帯を示す帯状路面表示は、色彩は青色系を基本とし、自転車専用通行帯の全部を着色するものとする。

【施工管理・施工計画】

問12

施工管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 施工管理は請負契約を確実に履行するための手段で、最初に施工計画を立案して、品質、原価、工程、安全、環境保全等の各施工計画を作成する。
- ② 品質管理は、所定の仕様どおりに施工されているかチェックをし、工程の節目や完了時に検査を行う。
- ③ 品質と工程の関係は、品質の良いものを求めると時間がかかり、施工速度は遅くなる。
- ④ 工程と原価の関係は、施工速度を上げれば上げるほど原価は安くなる。

問13

施工計画に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 工程計画は、工事に必要な作業可能日数、平均施工量、作業日程の算定を行い、実施工程表を作成する。
- ② 本工事を実施するため必要な工事用施設を設ける仮設工事には指定仮設と任意仮設があり、いずれも設計変更の対象となる。
- ③ 出来形管理は、工事目的物が設計図に示された形状と寸法を満足しているか確認をし、信頼度の高いものを完成する管理である。
- ④ 現場内から発生する廃棄物を排出するとき、「マニフェスト制度」を利用して、不法投棄がないように適正に廃棄処分をする。

【工程管理・資材管理】

問14

工程管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 作業可能日数は、休日、天候その他に基づく作業不可能日数を工期日数から差し引いて推定する。
- ② 作業可能日数算定の調査事項は、降水量、降水日数、積雪日数、気温(最高、最低、平均)、地質、土質、作業現場の位置等である。
- ③ バーチャート工程表は、各作業の所要日数と工種間の関係が把握できる。そのため複雑な工事に活用できる。
- ④ ネットワーク工程表は、作業を実線で表示する「アロー式」と、作業を丸印で表示する「サークル式」がある。

問15

資材管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 資材の搬入方法や時期は、工事の進捗状況によって変わる要素が多い。搬入計画の調査や資材置場・倉庫の確保は、工事開始後にする。
- ② 資材は、設計図書どおりに製作されているかどうかを現場搬入前に工場等において立会検査を行う。
- ③ 資材の購入に当たり、工事数量は設計図に基づく見込み数量であり、施工に必要な数量は施工図から算出する。
- ④ 搬入計画において、一般公道を利用するときは、道路管理者、警察、地元関係者等との協議が必要な場合がある。

【原価管理】

問16

原価管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 数量の確認は、設計図書から数量を拾い出す場合と元請から数量を渡される場合がある。
- ② 工事積算を精密に行うためには、工事内容を伝える契約書、設計図、仕様書等を理解する必要がある。
- ③ 原価要素は、建設工事では、材料費、経費、外注費の3要素に分類するのが一般的である。
- ④ 土工事では、土の積込み土量を計算するが、土質によって土量が変わることに留意しなければならない。

問17

品質管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 建設物は一品生産で個別性が強く、評価の対象となる特性は多様である。
- ② 施工者が発注者に対する品質保証は、契約の中に「瑕疵担保責任」として明文化されている。請負人は施工の瑕疵について、引渡し後2年間は瑕疵の責任を負う。
- ③ 品質特性は、できるだけ具体的な数字で表示されることが望ましく、それを品質特性値という。
- ④ 施工品質を確保し向上させるためには、可能な範囲で作業の標準化を図ることが必要である。

問18

品質管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 管理図とは、時間経過による品質特性値の変化を把握し、測定した値のばらつきを管理するものである。
- ② 品質管理とは、「買い手の要求に合った品質の物又はサービスを経済的に作り出す」とことと定義されている。
- ③ 品質の問題は、いろいろな要素が複雑に絡み合っている。品質を向上させるために、関係者が集まってブレインストーミングを実施することもある。
- ④ 品質には、設計段階で定められる設計品質(出来ばえの品質)と、施工段階で実現する施工品質(ねらいの品質)がある。

問19

安全管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 施工者が安全対策上の重要課題としているのは、安全意識の高揚、ヒューマンエラー対策、安全経費の確保、安全衛生教育等である。
- ② 「ハインリッヒの法則」によると、1件の重大災害(死亡・重傷)が発生する背景には、19件の軽傷事故と100件のヒヤリ・ハットした傷害のない災害があるとされる。
- ③ KY活動における安全指示は、マンネリ化させない工夫が必要である。
- ④ 公道上での作業域においては、通行車両の進入を防止するため、囲い、柵、ガード等の保安設備を設置し、誘導員を配置する。

問20

安全管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 労働安全衛生法が定める作業員が守るべき義務としては、安全状態の保持、無資格就労の禁止、保護具の着用、危険行動の禁止などがある。
- ② 元請業者は、新規に就労する作業員に対して、現場の状況や作業内容等を周知させるため新規入場者教育を実行しなければならない。
- ③ 労働災害が発生した場合、その会社は民事責任や行政責任を負うことがあるが、刑事責任は現場の責任者や作業員に限られる。
- ④ 安全施工サイクルは、現場の日常業務の中に安全活動を組み入れるものであり、安全朝礼、作業前点検、安全パトロール、後片付け、終業時点検等がある。

問21

標識令に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 道路標識は安全で円滑な交通を確保するための施設であり、その設置に当たっては、道路利用者の行動特性に配慮する必要がある。
- ② 歩道上に設置する路側式の案内標識の設置高さは、路面から標識板下端まで1.8mを標準とする。
- ③ 道路標識は本標識の4種類と補助標識に分類されている。
- ④ 道路標識の設置者は当該道路の道路管理者のみである。

問22

案内標識の整備水準に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 案内標識は、道路利用者に対し目的地の方向・距離、現在地、道路の附属施設等を案内するものであり、サービス機能が主体である。
- ② 補助幹線道路の交差点流出部に設置される「方面及び距離(106-A)」は、必要に応じ設置される標識である。
- ③ 主要幹線道路と幹線道路が交差する交差点手前の「方面及び方向の予告(108-A)」は、設置すべき標識である。
- ④ 補助幹線道路の市町村境界における「市町村(101)」は、必要に応じ設置される標識である。

問23

経路案内標識に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 経路案内標識とは、出発地から目的地付近までの案内をするものである。
- ② 交差点の予告案内をする「方面及び方向の予告(108-A)」は、原則として交差点の手前300m以内の地点に設置する。
- ③ 複雑な形状をした交差点においては、行先方面の案内を明確化し、交通の安全と円滑を図るために、矢印の色彩は白色以外を使用してもよいとされている。
- ④ 「方面及び距離(106-A)」標識で、目標地を3段表記する場合は、最上段に主要地を表示する。

問24

地点案内標識に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 地点案内標識の「市町村(101)」の設置位置は、境界線から原則50m以内とする。
- ② 「著名地点(114-B)」に附置された地図標識の設置高さは、歩行者及び車椅子利用者が共通して見やすい高さとする。
- ③ 英語表記の場合、府県は「Pref.」、駅は「Sta.」と省略できる。
- ④ 「著名地点(114-A)」標識で表示するピクトグラムは、原則JIS化された標準案内用図記号が用いられる。

問25

案内標識の目標地に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 案内標識に用いる目標地としては、第1ランク地名のうち最も近い地名を表示することを原則とする。
- ② 目標地が市町村の場合、当該行政区域内では使用しない。ただし、区域内で使用する場合は「〇〇市街」又は市街部に著名な施設(駅など)の目標地を設けることを考慮する。
- ③ 政令指定市や県庁所在地は主要地に分類される。
- ④ 道路の分類で上位路線と下位路線が重複している場合、原則として上位路線の案内を優先させる。

問26

高速道路等に設置される案内標識に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 高速道路上から一般道路の「道の駅」を案内する場合、「サービス・エリア、道の駅の予告(116の2-C)」を設置することができる。
- ② 一般道路上の案内標識においても高速道路の路線番号を表示できる。
- ③ 高速道路の入口を案内する「入口の方向(103-A)」の標示板の大きさは、設置する道路の車線数等にかかわらず、同じ大きさとなるように設置する。
- ④ 高速道路本線に設置される「出口の予告(109)」は、設置箇所の車線数によって支柱方式が異なる。

問27

警戒標識に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 強い横風のおそれがあり、道路利用者に注意を促す必要があると認められる箇所には「横風注意(214)」を設置する。
- ② 「踏切あり(207-B)」は、踏切の手前に設置するものであるが、警報機がある踏切では設置を省くことができる。
- ③ 児童あるいは幼児等が頻繁に通行し横断する地点には「学校、幼稚園、保育所等あり(208)」を設置し、通学路には区域を示す補助標識「通学路(508)」を併設する。
- ④ 「幅員減少(212)」は、車線区分のない道路又は片側1車線の道路において急に幅員が狭くなり、走行上危険となる箇所の手前に設置する。

【規制・指示標識の設置】

問28

規制標識の設置基準に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 市街地等で交差点が密に連続している区間において、右左折して規制区間に流入する車両から容易に視認することができる範囲に区間内標識が設置されているときは、交差点ごとに設置する区間内標識を適宜省略できる。
- ② 交差点間隔が長く、区画内で規制の意味が判然としなくなるおそれがある場合は、特定のものを除き、設置間隔がおおむね1.0kmを超えない範囲で区間内標識を設置する。
- ③ 速度規制において道路標識と道路標示を併せて設置する場合には、できるだけ双方が同一場所となるように設置する。
- ④ 一つの都道府県の区間内において、公安委員会の意思決定の時期が異なる同一種類の規制が連続する場合、一方の規制区間に係る終点標識及び他方の規制区間に係る始点標識に代えて、区間内標識を設置する。

問29

規制標識に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「歩行者横断禁止(332)」及び「安全地帯(408)」は原則として単独で設置する。
- ② 道路標識の併設枚数は本標識板及び補助標識板を合わせて同一面において4枚以内とし、補助標識「始まり(505-A)」や「区間内(506)」もこの枚数に含まれている。
- ③ 本標識板の配列順位は、「駐車禁止(316)」と「時間制限駐車区間(318)」が併設される場合にあっては、駐車禁止が先順位(上位)となる。
- ④ 道路の左側路端に道路標識を併設する場合の配列順位は、原則として上下の場合は上方、左右の場合は右側(車道側)が上位の配列順位である。

問30

規制・指示標識に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 一方通行路の区間内標識「一方通行(326-A)」は、一方通行路の区間内にこれと交差する道路がある場合は、交差する道路から見やすい場所に設置する。ただし、交差道路に指定方向外進行禁止等の規制により本規制の状況が明らかでない場合は、区間内標識を省略することができる。
- ② 「指定方向外進行禁止(311A～F)」は、当該交差点に係る信号機(車両に対面するものに限る。)に設置された場合でも規制効力がある。
- ③ 「最高速度(323)」は、最高速度を指定する区間が連続し、かつ、それぞれの指定区間の最高速度が異なる場合には、それぞれの指定する区間の終点・始点に終点標識及び始点標識を設置する。
- ④ 「駐車禁止(316)」は、駐車禁止を指定する区間が交差点を挟んで連続する場合には、手前の駐車禁止を指定する交差点の終点標識を省略し、始点標識の代わりに区間内標識を設置する。

問31

規制・指示標識に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「歩行者横断禁止(332)」は、路面から標示板の最下端までの高さは原則1.2mとし、道路及び交通の状況により1.8mまで高くすることができる。
- ② 「車両横断禁止(312)」は、交差点の右折禁止(指定方向外進行禁止)との混同を避けるため、交差点付近(おおむね30m手前の部分)には原則として設置しない。
- ③ 「一時停止」の標識面は、「止まれ」のみ表記のものを「330-B」とし、「止まれ」と「STOP」併記のものを「330-A」としている。
- ④ 「駐車可(403)」は、区間内標識には補助標識「区間内(506)」を附置しない。

問32

規制・指示標識に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「専用通行帯(327の4)」(普通自転車専用通行帯を除く。)は、対象となる車両の種類が一つの場合は文字を、複数の場合は記号を表示する。
- ② 信号機が設置されていない交差点等において横断歩道と自転車横断帯を併設する場合には、「横断歩道・自転車横断帯(407の3)」を設置する。
- ③ 「進行方向別通行区分」の道路標識を設置する場合は、原則として「進行方向別通行区分(327の7-B~D)」をオーバーヘッド方式により設置するものとする。
- ④ 「規制予告(409-B)」の標示板には、場所周辺の道路形状とともに迂回(うかい)させようとする方向を矢印で表示する。

問33

補助標識に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 車両の種類略称は、「大型自動車」は「大型」、「普通自動車」は「普通」、「大型特殊自動車」は「大特」、「大型乗用自動車及び特定中型乗用自動車」は「バス」という。
- ② 補助標識における時間の表示は24時間制によるものとし、原則として時間単位で行うものとする。
- ③ 1.0倍の文字及び記号の規格は、文字を1段に表示する場合は板の縦寸法を18cmとし、矢印を1段に表示する場合は22cmとする。
- ④ 「終わり(507-C)」は本標識板の上方に附置するものとし、他の始点標識又は区間内標識とは上下に併設しない。

【標識の設計・製作】

問34

道路標識設置基準に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 設計及び施工に当たっては、構造の安全性、耐久性、施工品質の確保、維持管理の確実性及び容易さ、付近の状況との調和並びに経済性を考慮しなければならない。
- ② 材料については、強度、靱性(じんせい)、耐久性等の材質が確かなものでなければならない。また、厚さや反り等の形状、寸法等の品質が確かでない限りはならない。
- ③ 構造は、自重、風荷重その他の当該道路標識に作用する荷重及びこれらの荷重の組合せに対して、十分安全なものでなければならない。
- ④ 道路標識は、設置後においてその耐久性が損なわれることがないように維持管理を十分に行い、常に良好な状態に保たれるよう配慮しなければならない。

問35

道路標識の構造に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 道路標識の主な設置方式には、路側式、片持式、門型式、添架式がある。
- ② 道路標識に用いる基礎形式には、ケーソン基礎、直接基礎、杭基礎(単杭・組杭)がある。
- ③ 標識柱の鋼材であるSS400は、JISにおいてC(炭素)含有量の上限が規定されていないことから、溶接部には用いないことが基本とされている。
- ④ 基礎に使用するコンクリートの配合設計では、耐久性も考慮しながら、コンクリート設計基準強度に見合った適切な水セメント比 W/C を65%以下で設定する必要がある。

【標識の維持管理】

問36

直轄事業の道路標識の点検と診断に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 道路標識の点検は、門型標識においては5年に1回の定期点検(詳細点検)を実施し、その他の型式の標識は必要に応じて詳細点検を実施するように定められている。
- ② 通常点検とは、附属物の損傷の原因となる大きな揺れ、大きな変形及び異常を発見することを目的に、道路の通常巡回を行う際に実施する点検をいう。
- ③ 初期点検とは、附属物設置後又は附属物の仕様変更等が行われた場合の比較的早い時期に発生しやすい損傷・異常を、早期に発見するために行う点検をいう。
- ④ 定期点検とは、次回の定期点検までに必要な措置等の判断を行う上で必要な情報を得るため、一定期間ごとに行う点検をいう。

問37

小規模附属物点検要領に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 対象とする設置方式には片持ち式と路側式があり、高所に設置された路側式は片持ち式に分類される。
- ② 片持ち式は、支柱、横梁、標識板又は灯具取付け部、ブラケット取付け部等の弱点部を点検することとし、その他必要に応じ第三者被害のおそれのある部材を点検する。
- ③ 片持ち式の診断は、部材単位・施設単位ごとに4段階で評価を行う。
- ④ 道路管理者は基本使用年数を設定し、それを越えた時点で更新することで施設の合理的な管理を目指す。

問38

道路標識の損傷事例に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 三角リブ先端は応力集中箇所のため、溶接による欠陥と振動により亀裂が発生している。
- ② マクロセル腐食は、地際部に砂塵や水が滞水して発生している。
- ③ 接触腐食は、同種金属の間に水が滞水することが原因で発生している。
- ④ 支柱の開口部は、応力集中により亀裂が発生している。

問39

道路標識の損傷状況の把握と診断に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 防食機能の劣化については、溶融亜鉛めっきの場合は支柱地際部など板厚が厚い箇所では損傷状況の劣化が顕著である。
- ② 断面欠損は、柱・梁のキャップで発生している場合については部材及び施設の判定に含んではならない。
- ③ 標識板の重ね貼り箇所にブラインドリベットを使用している場合は対処が必要である。
- ④ バンドによる取付け金具の損傷は、バンド押し曲げ形状が直角に曲げたため亀裂が発生している。

問40

道路標識の変状内容と対策方法に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 詳細点検で支柱本体に軽度の亀裂を発見した場合、応急措置としてアルミテープを巻き付けるものとする。
- ② ボルトの緩みによる損傷を発見した場合は、ボルトの種類により適切な対策を行う必要がある。
- ③ ボルトは、緩み止め機能を有したナットを用いて所定の締付け方法で締付けを行い、合いマークをボルト軸からナット及び締付けプレートまで施工する。
- ④ 根巻きコンクリート地際部については、水勾配を設けて滞水しないようにする必要がある。

――問題はこちらまで――